

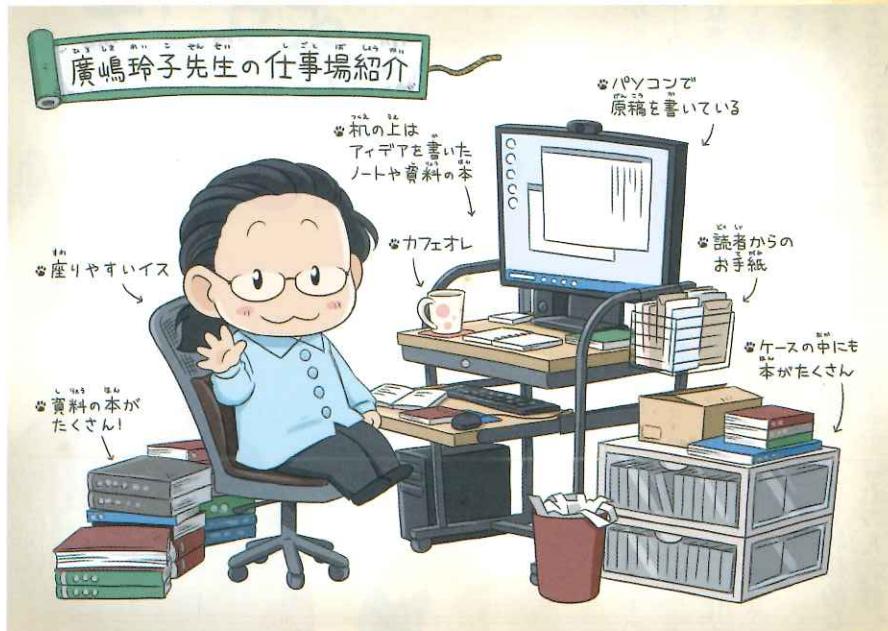
藤並の森

vol.94
2021.09

リレー隨筆

「ふしぎ駄菓子屋 錢天堂」へようこそ

廣嶋玲子



廣嶋先生の仕事場をイラストでご紹介 ©廣嶋玲子・jyajya／偕成社

最初に展覧会の企画書を見たときは、本当に驚きました。なんて大がかり！ 訪問者が楽しめるよう、いろいろと盛りだくさんにお祭りのようじやありませんか。企画者の方々の意気込みが伝わってきて、胸が熱くなりました。

私にとって「ふしぎ駄菓子屋 錢天堂」は、作家人生に大きな変化と勢いを作ってくれた作品です。その作品を、このように展示していただけるなんて、こんなにありがたいことはありません。本当にありがとうございます。

高知県といえば、坂本龍馬、かつお、土佐鶴と、いろいろ有名なものがありますね。でも、私が最初に思うのが、田島征三さんの絵本『だいふくもち』です。

なまけ者のごとくが、床下で不思議な大福餅を見つけるお話しを申します。「ふしぎ駄菓子屋 錢天堂」の展覧会に来てください、本当にありがとうございます。ちなみに子ども們はどこの方言かはわからず、土佐弁と気づいたのは、NHKの大河ドラマ「龍馬伝」を見てからでした。坂本龍馬たちがしゃべっているのを聞いて、「あっ！ これ、ごとくとだいふくもちが使っていた言葉だ！」と、わかったときの興奮ときたらひさしぶりに『だいふくもち』を思い出し、むかしの友だちに再会できたような喜びがありました。

そんなエピソードもありまして、私はとても高知県に親しみを感じております。その土地での展覧会ということで、わくわくが止まりません。

皆様にもたくさん楽しんでいただけますように。そして高知県立文学館のますますのご発展をお祈り申し上げます。

(作家)

ふしぎ駄菓子屋 錢天堂へようこそ

令和3(2021)年

9月18日土～11月14日日



©廣嶋玲子・jyajya/偕成社

することが出来ます。「ふしぎ駄菓子屋 錢天堂」シリーズは私達の想像力を育むだけでなく、心の奥に眠る欲を刺激し、また様々な価値観や多样性を教えてくれる作品といえます。

■この館報を見た「幸運のお客様」へ

会場では、作者の廣嶋玲子さん、作画のjyajyayasanにご協力いただき、作品への思いを聞いたインタビューパネル、ラフスケッチ、没イラストのほか人気駄菓子を立体化して展示。フォトスポットも設け「ふしぎ駄菓子屋 錢天堂」の世界を多彩に楽しむことが出来ます。会期中は楽しい関連イベントも用意しておりますので、ぜひお越しください。今回の観覧チケットはjyajyayasan描き下ろしの「お宝コイン」となっており、それだけでも一見の価値あります。「錢天堂」の店主・紅子さんと共に、幸福のお客様のご来店を心よりお待ちしております。

(学芸課／福富陽子)



第11巻「虫よけ香水」ラフスケッチ

暑い夏が去つて、読書の秋がやって来ました。高知県立文学館では小学校中・高学年を中心には大人気となっている「ふしぎ駄菓子屋 錢天堂」(廣嶋玲子・作/jyajyayasan)の企画展を開催し、児童文学の奥深さ・魅力をご紹介します。この秋は、美味しそうな「錢天堂」の駄菓子とともに【自分で考え、選択することの大切さ】をじっくり考えてみませんか?

■小さな駄菓子に秘められた大きなテーマ
「ふしぎ駄菓子屋 錢天堂」は幸運な人だけがたどりつける駄菓子屋「錢天堂」を舞台にした児童文学作品です。

なんといっても特徴的なのが”幸福になるか不幸になるかはその人次第”という、登場人物の選択によって運命が分かれる点です。作中では、10代から70代まであらゆる世代の人物(時には動物)が主人公として登場し、ユニークな駄菓子にまつわる様々なドラマを繰り広げています。

読者は登場人物とともに物語を楽しみながら「自分だったらどう行動するか」「自分はどの駄菓子が欲しいか」と思考をめぐらし、行動次第で運命は変わることや、思わず自分の願望などを発見

※新型コロナウイルスの感染拡大状況によって展覧会及びイベントは内容変更または中止となる場合がございます。最新情報は文学館HP等でご確認ください。

もっと!

ノンタン

みんなだいすき!

レポート

お客様が密にならないよう、展示室だけではなく、ロビーもフルに活用しました。

ロビーには、絵本の読書コーナーや作者のキヨノサチコさんを紹介した映像コーナー、ノンタン迷路やノンタンを探そうなどのパネルや写真撮影コーナーなどを設け、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながらの開催となりました。

展示室の入口では、雲の汽車に乗ったノンタンや仲間たちを描いたアートがお客様を会場へと誘い、展示室には、ノンタンの可愛い家も再現しました。家の中には、ノンタンのベッドや椅子が置いてあり、布団をめくると、魚の形をしたノンタンのおねしょのシミに、思わず笑みがこぼれます。

他にも『ノンタンおよくのだいすき』『ノンタンぶらんこのせて』『ノンタンふわふわターダン』『ノンタンぱつぱらばなし』など、お話を世界を造作物で再現しました。

刊行45周年記念

これは、高知会場限定であり、子どもたちは、キャラクターになりきつて遊び、撮影スポットでは、写真を撮つたりして楽しんでいました。

今回のメインテーマは、やはり131点に及ぶノンタンの原画です。小さな子どもたちにも本物に触れる喜びを感じてもらうことが出来て、本当に良かつたと思います。

今回の企画展には、若い女性のグループや若い世代の親子づれやおじいさんやおばあさんに連れられた可愛いお孫さんたちの姿も多く見られ、お客様からは、美しい色の原画に対する感動、子どもたちが喜んでいる姿を見てのお礼、子どもの頃にノンタンを読み、懐かしくて見に来たという30代から50代の方のお声も沢山いただきました。

企画展に関連したイベントも好評で、ノンタンの5種類のスタンプを押し館内を廻るスタンプラリーには、来館者のほとんどが参加され、ノンタンのクッキー・ポシェット作りには、400人以上の方が参加してくださいました。作成したポ

「誰でも一人ではいきていけません。みんなも繋がりを大切にして、たくさん夢を見てノンタンみたいに自分らしさを失わずに子どもの部分も大切にしていてください。」という作者のお嬢様からの温かいメッセージを受け取り、多くの人々が展覧会を楽しんでくださっていました。

(学芸課長／津田加須子)



文学の森から

文学館長に就任してからひと夏が過ぎようとしている。藤並の森を抜けて石造りの文学の館に通う毎日は、この上なく清々しく充実している。

館内に満ちている顕彰作家

達の優れた功績や、現代作家

の才氣あふれる創作の数々に

触れるたび、文学に関わる道に進みたいと願いながら実現できなかつた遠い日の自分に還り、やり直したい気にもなつてくる。

そんなちっぽけな感傷をよそに、夏の企画展「もつと—ノンタンみんなだいすき！」には、おかげさまで連日たくさんの親子連れにお越しいただき、館内は子供たちの明るく元気な声に包まれていた。

そして遂に全国初の展覧会

『ふしぎ駄菓子屋 錢天堂』によ

うこそ』が始まる。

錢天堂は幸運な人だけがたどりつける不思議な駄菓子屋。女主人がすすめる駄菓子は、客の願いが叶う、どれもその人にぴったりのもの。でも、食べ方や使い方をまちがえると…はたしてその駄菓子は幸運を呼ぶか？不幸をまねくか？



よろしくお願いします

(原 哲)

第24回



朗読コンクール 西部地区審査を 開催しました

運も不運も紙一重。ころりと転じる運試し。使い方をまちがえると不幸をまねくのは、駄菓子に限つたことではないです。はたしてあなたにぴたりの「駄菓子」はなにか、文学館に探しに来ませんか？…

好きな作家の本だけを脈絡もなく読み散らかしてきただけの元県職員に文学館長の重責が担えるかと自問しながらも、そうであるからこそ見える文学館の有り様を探り、多くの皆さんから求められる文学館づくりに微力ながら取り組んでいきたいと思う。

文学好きの文学知らずを戒しながら、文学の森の奥深さを探求したいと願う、館長一年目の読書の秋である。

毎年当館では、高知県内の小・中学生を対象にした朗読コンクールを開催しています。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響によりやむなく中止となりましたが、今年度は感染防止策を徹底したうえで開催に臨んだところ、初参加の9校を含む県内36校から計98名の参加申込みがありました。小学生から中学生になつても継続して参加してくださった生徒さんもいたり、また、前回が中止になつたため今年の再開を待つていたというありがたいお声もいたたゞなど、参加者及び関係者の皆様の朗読にかける想いをひしひしと感じるとともに、主催者の一員としては身が引き締まる思いで、出場者全員が日頃の練習の成果を存分に発揮できるよう、安心して朗読発表に臨める本番の環境づくりを念頭に話し合ひを重ねながら準備を進めました。

まずは、夏休み中の8月18日(水)に大方あつき館を会場に西部地区審査を実施し、小・中学校4校より8名の児童生徒の皆さんが出場し、表

(学芸課／道脇タ加)

いました。中には、地元出身の作家の作品や、地元に伝わるお話を元にした作品を選んだ方もいて、作品選びの中に地域を大切に思う気持ちが込められているように感じました。西部に統いて東部と高知の各地区審査を実施する予定でしたが、高知となり、県の対策や県民・事業者への協力要請が一段と厳しい内容になつたことなどを考慮し、対応を検討した結果、東部地区審査及び高知地区審査については、やむを得ず9月に日程を延期することとなりました。

ひたむきに朗読作品と向き合い練習を重ねている参加者の皆さんもとより、朗読の指導をされる先生方や参加者を支え見守つておられる保護者の方々の想いを受けとめ、東部地区審査と高知地区審査が無事開催できることを願いながら、参加者の皆さんに日頃の練習の成果を安全にのびのびと発表していただけるよう、万全を期して準備を整えています。(令和3年8月22日現在)



濱口空谷の辞世の句

谷
是

（立憲民政党）の総裁、土佐で生まれ育つ

た、ただ一人の総理大臣である。東京帝

国大学を出て、すぐ大蔵省に入った。收

税長として山形、税務管理局長として

松山、熊本など地方廻りが続いた。その

間、雄彦、巖根、タカ、悌など子供がたく

さんで、妻・夏も病身で、生活は難儀

した。趣味は書斎で漢詩を吟る、家族を

連れて公園を散歩することであつたが、

熊本時代、下僚に森愚山という俳人が

いた。その人の手ほどきで俳句を作るこ

とを覚えた。号は米隣、枯木、霸川など

と変えたが、のちに空谷で通した。生誕

地・高知市五台山唐谷をもじつたもの。

学生時代、夏目漱石などと、鎌倉円覚寺

釈宗演の元に参禅したこともあり、空

無は彼の根底にある観念であつた。そ

の句集は別に聞かないが、幸いなことに

三女・北田悌子の著作「父濱口

雄幸」（昭和七年、日比谷書房）に句はたくさん収録されてい

る。政局多難な折には「瘦せ

馬に、山又山や、春かすみ」な

どがあるが、漢詩の世界から

とつた「長安に李白一斗の夜

寒かな」（屈原が足のはそさよ

枯蓮」（謡曲・鉢の木・貧僧の弱



高知市五台山(元東孕)唐谷の濱口雄幸の生家、穀耕(種干し場)・雄幸が勉強部屋にしていたの前に立つ、辞世「蜩の…」の句碑(自筆拡大影)

(郷土史家)

下敷にした作品が多い。「禪寺の厨裏静かなり蕨汁」雑司ヶ谷閑居屠蘇の香や衣かたしく致仕の人など心境の句も目につく。

昭和五年十一月十四日、東京駅にて長崎系の右翼の青年佐郷屋留雄に狙撃されたが「碧巖錄」の一節「夜深シテ同ジク看ル千巖ノ雪」を口吟しながら死のうとした。結局、翌年八月二十六日、この傷がもととなり、死去したが、

蜩の姿は見えず夕栄えす
秋の雲、影ものこさず消えてゆく

を辞世の句とした。蝉の声も聞えなくなり、夕栄の中で死のうとしているという絶句には、すべては「無」であり、「空」である、悟達の境地が現われている。どの宗匠の名句よりも、心打たれるのは、私だけであろうか。

林嗣夫さんは、昭和11(1936)年高

知県幡多郡十川村(現・高岡郡四十町)生

まれる詩人です。十川中学校卒業後、ふるさ

とを離れ高知工業高等学校電気科に入学

し、嶋岡 晨、片岡文雄らも輩出した文艺部

に所属。国語教員として高知学芸中学高等

学校に勤める傍ら28歳で高知新聞詩壇に投

稿を始め、平成28(2016)年には、前年に

発表した「そのようにして」で第49回日本詩

人クラブ賞を受賞。85歳になった現在も精

力的に詩を発表しています。今回、50年以上

にわたって発表した19冊の全詩集から約80

編を収録した代表詩選『ひぐらし』をご寄贈

下さいました。

林さんは本書の刊行に当たり、発表した

全ての詩集を改めて読み直し、詩作の流れを

たどっています。第1詩集から第5詩集の初

期の作品は、自分の職場である学校教室を

主な舞台とし、幻想や不条理感覚を取り入れながら描いたもの。第6詩集から第15詩

集は、ポストモダン思想の刺激を受け、さま

ざまな題材、テーマ、書法を試みる、模索期。

寄贈資料から

『林嗣夫代表詩選 ひぐらし』

林嗣夫著 土曜美術社出版販売刊

令和3(2021)年5月

299頁 菊判

林嗣夫氏寄贈

資料受贈報告

試行錯誤の連続だったが、この時期に刊行した「四万十川」は「以後の詩作の隠れた水脈となるような作品となつた」と振り返っています。第16詩集から後は「経験する」「時の過ぎゆきに立ち止まる」といった日常の基盤を大事にしたい、という考え方のもと、詩の内容や姿、形をととのえていく過程。この選集のタイトルを、巻末の作品から採つて「ひぐらし」としたのも、短詩ながらだりついた二つの境地を示していると思われるからだと述べています。

林さんの代表詩選『ひぐらし』他、これまでご寄贈いただいた著書の数々並びに代表を務める詩誌「兆」は、当館常設展の閲覧コーナーでご覧いただけます。



林嗣夫ひぐらし

(学芸課／山崎真理)

受贈報告 (令和3年5月～7月) 敬称略

（令和3年5月～7月）敬称略

受贈報告

（令和3年5月～7月）敬称略

（令和3

9月5日まで開催していました夏の企画展「刊行45周年記念 ノンタン絵本の世界展 もっと!ノンタンみんないすき!」は好評のうちに幕を閉じました。

ミュージアムショップ

ショッピング



夏休みの放課後児童クラブへ、

出張おはなしキャラバン に出かけました

当館では、教育普及活動の一環として「おはなしキャラバン」を実施しています。今年の夏休み期間も、小学校の放課後児童クラブから依頼を受け、当館カルチャーサポーターの皆さんとともに「出張おはなしキャラバン」に出かけきました。

放課後児童クラブのクラブ数は学校により様々ですが、児童数の多い学校では5クラブあるところもあります。児童の皆さんは暑い中でも元気いっぱい。カルチャーサポー

ターサンが演じる土佐民話紙芝居にも、絵本の読みきかせにも、いろいろな反応を返してくれます。その豊かな反応に、わたしたち大人は驚かれたり、笑いをいただいたり。

カルチャーサポーターの皆

さんも、紙芝居や絵本を何度も読み込み練習を重ねて、おはなしキャラバンに臨んでください。土佐弁で語られる民話の魅力を表情豊かに演じまた、絵本の登場人物に思いを込めて、楽しいお話はユーモアたっぷりと、怖いお話は抑揚を付けて雰囲気満点に。時にはご自分の体験談や想いを語ってくださることもあり、児童の皆さんはもとより、児童クラブの先生方からも熱心な質問があり、夏休み中、計15日にわたり行つた「出張おはなしキャラバン」ですが、当館カルチャーサポーターの皆さんのお力添えのおかげで活動ができています。当館の特色ある事業のひとつとして、これからも皆さんとともに、楽しく続けていけたらと願っています。

(学芸課／道脇夕加)

では、ノンタンの絵本シリーズやノンタン・ターンのぬいぐるみ、ポシェット、食器類などノンタンと仲間たちの笑顔いっぱいのグッズを取り揃えて観覧者をお迎えし

たところ、おかげさまで小さなお客様から

本シリーズやノンターン・ターンのぬいぐるみ、ポシェット、食器類などノンタンと仲間たちの笑顔いっぱいのグッズを取り揃えて観覧者をお迎えし

たところ、おかげさま

と嬉しそうな声にコロナ禍を払拭するような元気をもらう毎日でした。ありがとうございました。

りがとうございました。

大人の方まで連日大勢の皆様にご利用いただきました。夏企画展の何よりも宝物、子どもたちのたくさんの笑顔と嬉しそうな声にコロナ禍を払拭するような元気をもらう毎日でした。ありがとうございました。

9月18日、爽やかな秋の訪れを感じる頃から始まる企画展、「ふしぎ駄菓子屋 錢天団」へようこそ】にあわせて書籍やグッズなどを準備していきますので、当館にお越しの際には、是非ショッピングにもお立ち寄りください。

(総務事業課／海治紫野)



●
topic

みらいらん



嶋岡氏は、高知県窪川町（現・四十町）出身の仏文学者、詩人、評論家、小説家、元立正大学文学部教授。多角的に活躍する嶋岡氏ですが、今年7月に出版された雑誌「みらいらん」第8号（洪水企画）に「嶋岡晨特集」が編まれています。この雑誌は、詩と評論を中心掲載する年4回発行の季刊誌です。

嶋岡氏は、80歳代になって、2012年5月刊行の『終点オクシモロン』を始め『洪水』『魂柱・反世界遺構』『騒靈 poltergeist』『アメンボーの唄』と次々に出版。『終点オクシモロン』は、東日本大震災が刊行のきっかけになつており、犠牲者へのレクイエムと怒りが昇華され、作品化されました。

嶋岡氏の教え子である城戸朱里氏は「幻想と現実」の論考の中で、彼の詩作の変遷について、次のように述べています。「『模』に依つてネオ・ファンテジスムを標榜し、『薔薇色の逆説』で詩的出発を遂げた嶋岡晨は、その後、土着性に根差した生命

主義、新即物主義（レイエザハリヒカイト）、さらにはワードプロセッサーを介在させた自動記述的な新造語（ネオロジズム）の詩篇群、さらには撞着語法（オクシモロン）を駆使した詩、そして再び生命主義的な作風に回帰するとといった目まぐるしい変遷を見せていく」と、さらに、その根底には、表現上の変化や変遷を超えた詩人の本質があると分析。

「その手法は変化しても、正直で一本気な詩人の怒りと愛のみずみずしさが失われることはない」と嶋岡氏の詩を評した飯島耕一に共感する小笠原鳥類氏の論考「怒りの執念、言語の変身—嶋岡晨論—」に通じ、非常に興味深い内容となつています。是非、ご一読を。

当館では、常設展企画コーナーにおいて、令和4年4月1日から令和5年3月中旬まで「嶋岡晨展（仮）」を開催する予定です。是非、こちらの展示もご覧いただけたらと願っています。

(学芸課長／津田加須子)

高知県立文学館 カレンダー

いよいよ開催!
11月14日(日)まで



ふしぎ駄菓子屋 へんてんどうへ ようこそ



令和3(2021)年

9月18日土～11月14日日

会場 高知県立文学館 2階企画展示室

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分)

観覧料 一般500円(常設展含む)、

長寿手帳等お持ちの方・

高校生以下は無料



展覧会の紹介をしています！

詳しくは表紙・2ページ目をご覧ください。

©廣嶋玲子・jyajya／偕成社

関連企画のご案内

●クイズイベント「ふしぎ駄菓子屋 錢天堂」
の駄菓子博士になろう！

展示を観ながら楽しくクイズを解こう！
正解数に応じて、ステキなプレゼントがあります。

日 時 令和3(2021)年9月19日(日)、
20日(月・敬老の日)、10月10日(日)、
11月3日(水・文化の日)

各日とも午前10時～午後4時

場 所 高知県立文学館 2F 展示室前ロビー
参 加 当日の観覧券が必要です。
申 込 事前申込不要

※直接会場までお越しください

●工作イベント

くるり転じる、オリジナル万華鏡を作ろう！

「ふしぎ駄菓子屋 錢天堂」にちなんだ不思議な
万華鏡を作ってみよう！

日 時 令和3(2021)年10月30日(土)、31日(日)
各日とも午後1時～午後4時

場 所 高知県立文学館 1Fホール
定 員 各回30名
参 加 当日の観覧券が必要です。

申 込 電話または文学館受付にて事前申し込み

●ふしぎスタンプあつめ 会期中・随時開催

館内をめぐり「ふしぎ駄菓子屋 錢天堂」のオリジナリストンプを集めて、家でも楽しめるふしぎな冊子をもらおう！

参 加 当日の観覧券が必要です。



※その他、小学校・中学校向けの団体プログラムなど
予定しています。

詳細はお気軽にお問い合わせください。

※新型コロナウイルス感染拡大状況によって、展覧会及びイベントは内容変更または中止となる場合があります。
※新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みにご協力をお願いします。(マスクの着用・手指のアルコール消毒・適切な距離を保っての観覧・入場前の検温など)

高知県立文学館で開催する企画展・その他事業は職員全員で消毒・清掃を行い、
安心・安全にご利用いただけるよう感染予防・拡大防止対策を行っております。

利用案内

開館時間 午前9時～午後5時(入館は、午後4時半まで)

休館日 年末年始(12月27日～1月1日)を除き、無休。

※その他メンテナンス等で臨時休館することもあります。

観覧料 常設展一般370円 企画展はそれぞれ異なります。

20名以上の団体は2割引。高校生以下無料。

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、

戦傷病手帳又は被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者1名、
高知県・高知市長寿手帳をお持ちの方は無料です。

(窓口で手帳等のご提示をお願いする場合があります)

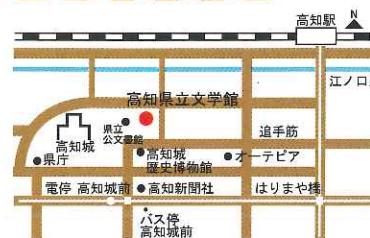
駐車場 なし。ただし近辺に有料駐車場があります。

附帯設備 ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、

茶室「慶雲庵」

貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

交通のご案内



●高知龍馬空港より空港連絡バス(県庁前行)

「高知城前」下車、北へ徒歩5分または

「高知駅前」(北よりまや橋)下車、徒歩20分

●JR高知駅下車、徒歩20分(または連絡バス・路面電車を利用)

●路面電車「高知城前」下車、北へ徒歩5分

●バス停「高知城前」下車、北へ徒歩5分

高知県立
文学館

〒780-0850
高知市丸ノ内1丁目1-20
電話 088-822-0231
FAX 088-871-7857

高知県立文学館 検索

